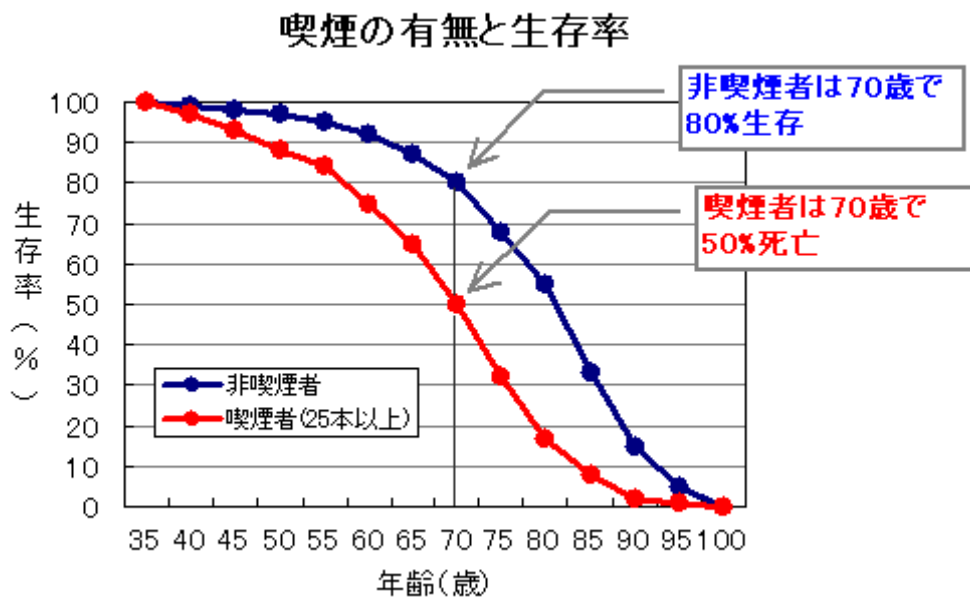


週刊 タバコの正体

“生命保険”って知っていますよね。予期せぬことで死亡したり大ケガを負ったり、大病をわずらったりしたときのために、保険会社に一定のお金を支払っておく制度です。そして万一の場合、その損失を保障してくるそれ相応の金額(保険金)がもらえる、というものです。

君たちの年齢では“生命保険”に加入している人はいないでしょうが、家族を養っていかなければならない大人たちの多くは、もしものために生命保険会社と契約し定期的に保険料を支払っています。日本には“生命保険”を扱う保険会社はたくさんあり、その保障内容や保険金などの種類も無数に存在します。

大人たちにとって数多い生命保険の中から、どの保険に加入するか大いに悩むところです。端的に言えば、少ない保険料で大きな保障(保険金)があるものが選ばれます。しかし一方、保険金を支払う保険会社にすれば、支払うお金は少なくしたいのは当然です。そこで保険会社では、契約する人達の健康状態を診査し、病気になる可能性が高い人にはより多くの保険料をもらう仕組みをとっています。逆に言うと、病気になる可能性が低い健康な人が支払う保険料は安くなるわけです。



出典 : Doll et al. Mortality in relation to smoking: 40 years' observations on male British doctors. Brit Med J 1994;309:901-911

そこで、保険会社の社員になったつもりで左のグラフを見て下さい。どうでしょうか。こんな事実を知れば、喫煙者と非喫煙者の保険料には差をつけなければ不公平だと感じませんか。

つまり、保険金が多くなりそうな喫煙者の保険料は高く、逆にタバコを吸わない人には安くすべきだと考えるはずですが。

と言うことで、現在ほどの保険会社でも健康診査による保険料の料率に、タバコを吸わない人には安くなる「非喫煙者優良体料率」と呼ばれる種類があるようです。

いずれ君たちは自分の家族を持つでしょう。それを考えると、なおさらタバコは必要ありません。

産業デザイン科 奥田 恭久